

【第 2 編 金融 4-6】マクロ統計とドル円相場～後編～

～米国マクロ統計が為替の今後を占う！～

(1)前回の復習

雇用統計

改善

米国雇用統計はマーケットを揺るがす!

米国失業率(U.S.Unemployment Rate)

世界の GDP のおよそ 20%を占めるアメリカ

そのアメリカ経済のおよそ 7 割は個人消費が占める!

雇用統計改善→賃金上昇→インフレ→ドル買い

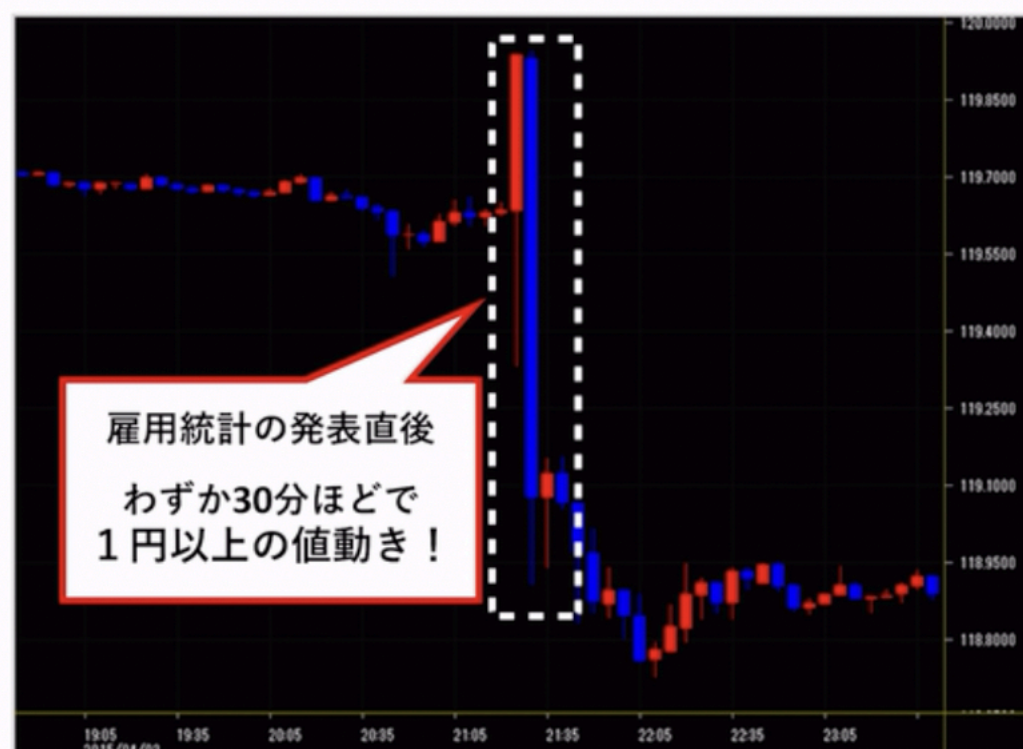
消費拡大 金利上昇 ドル高

雇用統計悪化→賃金低下→デフレ→ドル売り

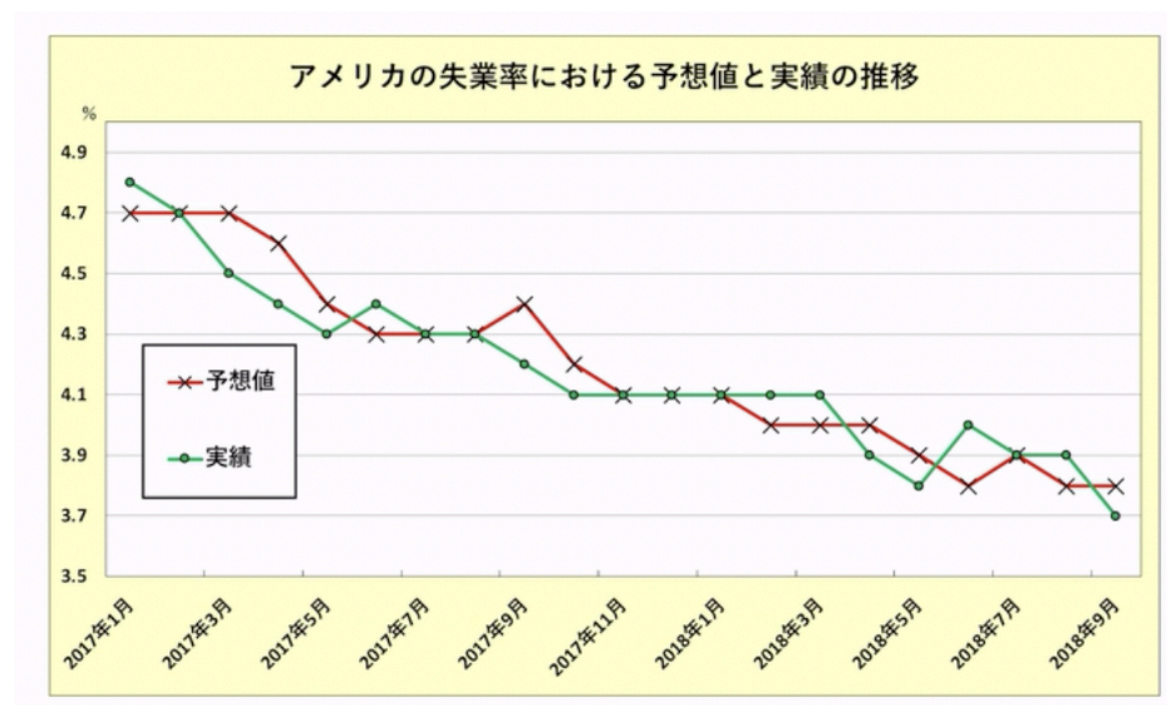
金利低下 消費縮小 ドル安

雇用統計の発表前後は為替が大きく動く

■ 2015年4月3日（金） 雇用統計発表直後のドル円チャート

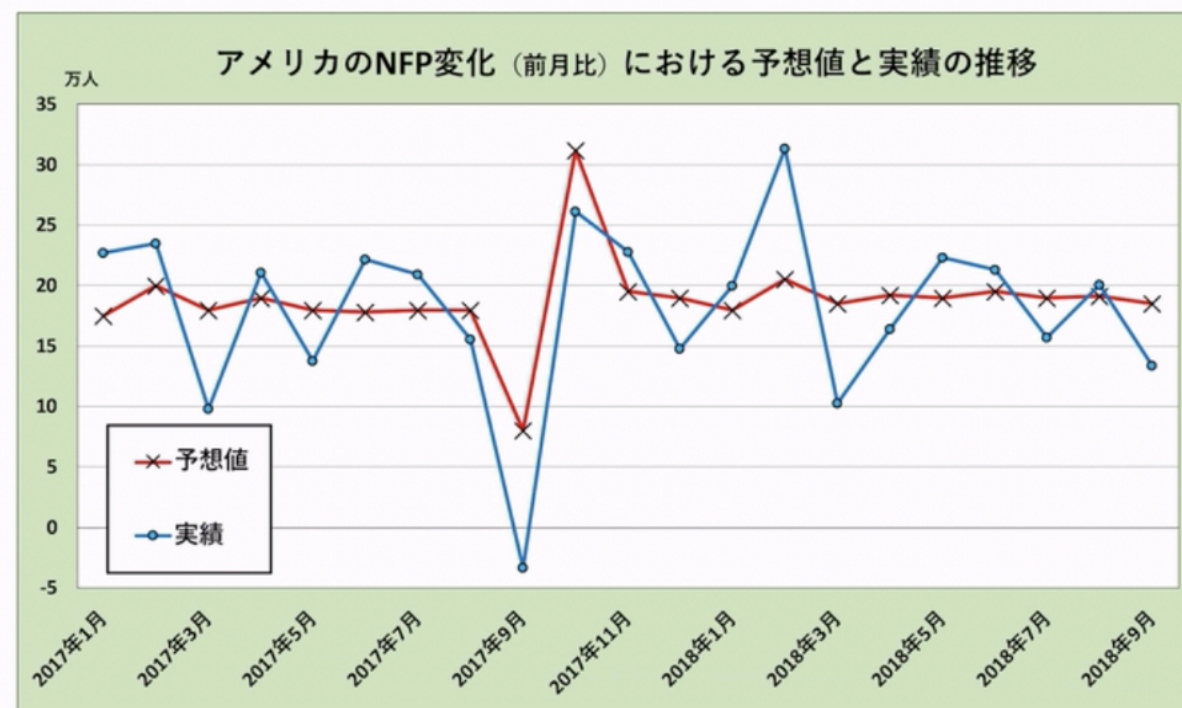


(2)最近は予想との乖離がほとんどない...



(3) 非農業部門雇用者数(NFP)

- ① 非農業部門の事務所における給与払い帳簿を基に集計される
- ② 対象となる事務所は、アメリカ全土で40 万戸、従業員数 4,700 万人で、全体の約 3 分の 1 をカバー



※変動為替の例:2014 年 11 月

予想と実績の乖離幅 9.1 万人

→発表 5 分後には 1.03 円ほどドル高へ

(4) 米国住宅統計

①住宅の購入増加→景気拡大の証

②住宅着工件数(Housing Starts)

→毎月(前月分)が発表